

知と交流の拠点施設整備基本設計業務に係る公募型プロポーザル

審査結果について

四日市市では、知識や情報、人に出会える滞在型図書館を核とし、市民の創造・交流活動の場となる多目的ホール、カフェ等を組み合わせた、複合施設である「知と交流の拠点施設」の整備を進めています。

本拠点施設の基本設計者においては、各機能の施設配置に加え、機能間の相乗効果につながる主要動線（人・サービス）の検討や、賑わいのまちなかへの波及につながるレイアウトの検討、沿道商店街との調整等について、豊富な経験と高度な能力を有する事業者であることが求められます。

また、過年度に実施した市民ワークショップでの意見も踏まえつつ、本基本設計業務で予定する市民ワークショップでのご意見についても、十分に反映した機能配置などのとりまとめが必要となります。

加えて、本拠点施設については、都市計画決定（令和9年1月頃）及び都市計画事業認可の取得（令和9年3月頃）を予定しており、基本設計を進めながら、三重県等の関係機関との協議・調整を行う必要があります。

また、工事費の上昇が著しい現状を鑑み、コスト変動要因として注目すべきポイントや工事費を抑制する為の工夫など、基本設計段階におけるコストマネジメントが重要となります。

このため、単に技術的・作業的な支援に留まらず、四日市市に適した「知と交流の拠点施設整備基本設計業務」を委託するのに最も適した者を最優秀者として、プロポーザルにて選定しました。

1 審査結果

最優秀者： 株式会社石本建築事務所 名古屋オフィス

次点者： 株式会社日建設計 名古屋オフィス

2 審査委員会 委員名簿（順不同・敬称略）

委員長	加藤 義人	名古屋都市センター特任アドバイザー、岐阜大学 客員教授
委員	近藤 早映	三重大学 准教授 東京大学 准教授
委員	川口 純史	四日市市 政策推進部長
委員	長谷川 術	四日市市 教育委員会 副教育長
委員	嶋田 康二	四日市市 都市整備部 計画担当部長
委員	堀田 智恵美	四日市市 シティプロモーション部 文化課長
委員	橋本 幹人	四日市市 都市整備部 都市計画課長

3 審査日時

一次審査：令和 8 年 2 月 13 日(金)

二次審査：令和 8 年 4 月 20 日（月） 9 時 30 分 ～ 17 時

4 審査経緯

- (1) 令和 8 年 1 月 16 日にプロポーザル公告を行いました。
- (2) 令和 8 年 2 月 4 日までの参加表明書等の受付期間に、4 者から参加申込書類を受理しました。
- (3) 一次審査として、4 者の参加資格を確認し、応募者、配置予定技術者の能力・実績を審査要領に基づいて評価した結果、全 4 者を一次審査通過者としました。
- (4) 4 者に技術提案書等の提出要請を行い、令和 8 年 3 月 30 日までの技術提案書等受付期間に、4 者から技術提案書等を受理しました。

※技術提案書等提出順

- ・遠藤克彦・東畑建築事務所設計共同体
- ・株式会社内藤建築事務所 名古屋事務所
- ・株式会社日建設計 名古屋オフィス
- ・株式会社石本建築事務所 名古屋オフィス

- (5) 二次審査として、一次審査通過者 4 者（全て匿名）による 20 分以内のプレゼンテーションと 30 分の質疑応答を実施し、技術提案内容や質疑への対応等について審査並びに審議を実施し、技術提案書の評価を行いました。
- (6) その集計を行った結果、応募者の実績・配置予定技術者の実績に係る得点と参考見積書に係る得点を合計した総合計点が最も高かった株式会社石本建築事務所 名古屋オフィスを本件業務委託の最優秀者、次に総合計点が高かった株式会社日建設計 名古屋オフィスを次点者とするについて、審査委員会において確認を行い、各候補者の選定に至りました。

5 審査基準

本件プロポーザルの審査にあたっては、審査委員会が別に定めた「知と交流の拠点施設整備基本設計業務に係る公募型プロポーザル審査要領及び評価基準」に従って、厳正な審査を実施しました。

本審査基準については、次のとおり示します。

■一次審査

評価項目	審査基準		配点		様式
				小計	
応募者の実績 (会社)	設計業務の実績		24	24	様式A-3
配置予定技術者の実績 (担当者)	管理技術者	経験年数	5	16	様式A-4イ
		設計業務の実績	11		
	建築意匠担当技術者	経験年数	4	12	様式A-4ロ
		設計業務の実績	8		
	建築構造担当技術者	経験年数	4	12	様式A-4ハ
		設計業務の実績	8		
	電気設備担当技術者	経験年数	4	12	様式A-4ニ
		設計業務の実績	8		
	機械設備担当技術者	経験年数	4	12	様式A-4ホ
		設計業務の実績	8		
	積算担当技術者	経験年数	4	12	様式A-4ヘ
		設計業務の実績	8		
合計				100	

■二次審査

評価項目	審査基準 (キーワード)	配点	様式	
コンセプト	以下の①～④の機能が融和し、各機能間の相乗効果を高める複合型の拠点施設について、スターアイランド跡地での検討を含めたこれまでの検討内容や、現在の候補地の特性を踏まえ、本提案全体に係るコンセプトの提案 ①ICTにも対応し、日常の居場所となる全世代を対象とした滞在型図書館 ②様々なライフスタイルに対応したワークショップスペースなど多世代交流機能 (小ホール等) ③情報発信・コミュニケーション機能 ④幅広い市民が気軽に立ち寄れる憩いの空間 (カフェ等)	12	様式B-2	
業務実施方針	業務の取組方針	・取組意欲の高さや積極性 ・発注者を支援する姿勢、業務への工夫、配慮	4	様式B-3
	合意形成のプロセス	・ワークショップ等利用者のニーズや意見を把握し、設計に反映させる合意形成プロセスの工夫、複数案比較の考え方 ・ワークショップの開催、都市計画決定 (R9.1月頃)、都市計画事業認可 (R9.3月頃) を見据えた作業スケジュール管理の考え方	4	
	業務上特に配慮する事項	・業務内容、業務の背景や課題などの理解度 ・総合的な考え方の的確性	4	

テーマ別提案	<p>【テーマ1】 まちづくりと一体となった空間づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地再開発プロジェクトと連携したまちなかの回遊性向上や賑わい創出につながる機能配置と空間づくり（多目的ホールの配置は1階とする） ・ 知の拠点として、生涯学習の場、読書を楽しむ場となる空間づくり ・ 交流の拠点として、様々な市民活動を通じた人と人の交流促進につながる空間づくり ・ こどもを含めた全世代の居場所となる空間づくり 	<p>12 (3点×4)</p>	<p>様式B-4</p> <p>【テーマ1】から【テーマ5】で3枚にまとめる</p> <p>※レイアウトや分量は提案者の自由とする</p>
	<p>【テーマ2】 外観・内観デザイン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地のランドマークとして、シビックプライドの醸成やエリアブランディングの向上につながるような、四日市ならではの品格ある外観デザイン ・ 滞在型図書館について、『知と交流の拠点施設整備方針の「10. デザインの方針」における「(1)施設内のデザイン」』を踏まえた内観デザイン ・ ホールについて、素材感や色あいの工夫など、滞在型図書館とは異なる空間特性にふさわしい内観デザイン ・ テーマ2に係る、ライフサイクルコスト低減の考え方 	<p>12 (3点×4)</p>	
	<p>【テーマ3】 全ての人が利用しやすい施設計画・動線計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニバーサルデザインの理念に基づき、利用目的、年齢、性別、障がいの有無等にかかわらず誰もが利用しやすい施設を実現するため、合理的な設備機器や家具等の選定・配置、上下移動、サイン計画等を含め、施設全体にわたってトータルコーディネートされた利用者にやさしい施設計画 ・ 図書資料の劣化に配慮しつつ、落ち着いて読書等ができる快適な閲覧環境や学習環境、蔵書の長期保存に配慮した保管環境等に係る滞在型図書館計画 ・ 本格的な音響空間、充実した舞台設備、ゆとりある舞台袖の空間を備えつつ、見やすさと同時に舞台との一体感がある鑑賞空間を備えた、多目的利用も可能なホール計画（収容人数200人程度） ・ 図書館や多目的ホール、カフェなどそれぞれの運営者が無駄のない動線で効率良くサービスが提供できる諸室の配置、資器材等を含む搬出入動線など、運営者にとって使い勝手の良い施設計画 	<p>12 (3点×4)</p>	
	<p>【テーマ4】 脱炭素社会の実現に向けた環境にやさしい施設計画と自然災害への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2050年にゼロカーボンシティを実現するため、省エネルギー化を図りつつ、時代の変化に対応できる脱炭素技術を備えた施設計画 ・ 大雨時に浸水被害が想定される立地場所の公共施設として、四日市市雨水総合治水対策を踏まえた対応 ・ 災害時に一時緊急避難場所や津波避難ビルとして活用するため、各種ハザードマップ等の被害想定を踏まえた対応 ・ テーマ4に係る、ライフサイクルコスト低減の考え方 	<p>12 (3点×4)</p>	
	<p>【テーマ5】 概算工事費の合理性と建設コストの管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提案する計画が、『知と交流の拠点施設整備方針』に示す「11. 整備費用」における120億円～150億円に見合った提案であることをどのように検証しているのかについて、工事費の上昇が著しい現状を鑑み、コスト変動要因として注目すべきポイ 	<p>6 (3点×2)</p>	

	<p>ントや工事費を抑制する為の工夫など、基本設計段階におけるコストマネジメントの考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、設計業務を進めていく上で、コスト変動要因となり得るリスクをどのように把握して管理し、目標とする整備費用（120億円～150億円）の範囲内で設計をまとめていこうとしているのかについて、その考え方及び手法 		
応募者の実績・配置 予定技術者の実績	一次審査結果×0.2	20	
参考見積書		2	
合計		100	

(注) (1) 技術提案書の評価

技術提案書（コンセプト・業務実施方針・テーマ別提案）の各内容について審査委員会が評価を行う。各評価項目の評価は、各委員の点数の平均点（小数第三位を四捨五入）を評価点とする。（最高得点：78点）

技術提案書の評価点が6割に満たない場合は、最優秀者及び次点者とししない。

(2) 応募者の実績・配置予定技術者の実績

一次審査の点数を0.2倍して算出（小数第三位を四捨五入）する。（最高得点：20点）

(3) 参考見積り

参加者から提出された提案見積価格を次の算定式（小数第二位を四捨五入）により点数化し、評価点とする。

（最高得点：2点）

価格審査の評価点＝2×最低提案見積価格÷提案見積価格

※最低提案見積価格：参加者の中で最も低かった提案見積価格

(4) 全体の採点を集計した評価点の算出

(1)、(2)及び(3)の全体の採点を集計した評価点（小数第二位を四捨五入）を算出する。（最高点：100点）

6 審査講評

本プロポーザルの二次審査は、学識者及び本市職員の合計7名で構成された知と交流の拠点施設整備基本設計業務委託プロポーザル審査委員会において厳正かつ公正に行いました。

審査経過を振り返りますと、参加表明書は4者から提出され、いずれも本事業と同種又は類似の設計実績を複数有する者からの応募となりました。

技術提案においては、コンセプト、業務実施方針に加え、以下に示す5つの特定テーマについて提案を求めました。

【特定テーマ】

- ① まちづくりと一体となった空間づくり
- ② 外観・内観デザイン
- ③ 全ての人が利用しやすい施設計画・動線計画
- ④ 脱炭素社会の実現に向けた環境にやさしい施設計画と自然災害への対応
- ⑤ 概算工事費の合理性と建設コストの管理

各応募者からは、各テーマの意図や敷地状況、施設整備方針を十分に踏まえたうえで、各者が有する専門的知見やこれまでの設計実績により培ったノウハウ等を組み合わせることにより、それぞれの特徴が盛り込まれた提案がなされました。

なかでも、最優秀者として選定された「株式会社石本建築事務所 名古屋オフィス」については、本事業の趣旨や四日市市の都市特性、敷地条件を的確に理解した上で、全体としてバランスのとれた完成度の高い内容でした。提示された4つのコンセプトはいずれも施設整備

方針に合致しており、施設を単体として捉えるのではなく、周辺市街地との関係性や将来のまちづくりへの展開も見据えた提案である点が評価されました。また、ワークショップ等での市民に対する説明や、関係者間での合意形成の場面においても、理解を得やすい表現力を有している提案でした。

計画面では、開放的な大空間を確保しつつもゾーニングが明確で、利用者動線に配慮された構成となっており、利便性に対する意識の高さがうかがえました。さらに、あらかじめ、機能や品質を落とさずにコストを下げる案を複数準備するなど、計画段階からコストコントロールを意識する姿勢が示されている点は、近年の厳しい建設市況を踏まえた提案として高く評価されました。

全体として、理解力、説明力、実現性、そして総合的な設計力に優れた提案であることから、最優秀者として選定するにふさわしいと判断しました。

また、次点者である「株式会社日建設計 名古屋オフィス」については、施設整備方針を踏まえながらも、建物の低層化に挑戦した構成など、意欲的で独自性のある点が評価されました。さらに、昨今の建設費の動向を踏まえた提案には高い分析力がうかがえました。一方、駐車場計画に関しては、来館者の利便性への配慮が求められる提案であったことから、総合評価としては次点にとどまりました。

7 最後に

本プロポーザルへの参加者が5者以内であったことから、上記4者ともに一次審査及び二次審査を実施し、各審査における委員の評価及び得点を確認し、最優秀者及び次点者の選定に至りました。

7人の委員におかれましては、それぞれの専門分野から、これまでの経験と知識を結集して審査を行い、その結果、知と交流の拠点施設整備において重大な役割を担うにふさわしい基本設計業務の最優秀者を選定することができたと考えています。

今後、本業務により最良な基本設計がまとめられ、事業が進んでいくこととなりますが、四日市市の中心市街地にふさわしい滞在型の拠点となる「知と交流の拠点施設整備」が成功裏に無事完了されることを心より祈念申し上げます。

最後に、本プロポーザルに対して真摯に取り組まれ、貴重な時間と労力を費やし御参加いただいた提案者の皆様におかれましては、4者ともに四日市市の未来への貢献意欲を高く感じる提案であった事に、忠心より敬意を表します。あわせて、審査に多大なるご協力とご尽力をいただいた審査委員各位並びに関係者の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。審査講評といたします。

令和8年4月30日

知と交流の拠点施設整備基本設計業務委託プロポーザル審査委員会

委員長 加藤 義人